

EASTERN WASHINGTON UNIVERSITY

Washington Short-Term Program



Classes

ここ数週間、英語コミュニケーションの授業では、アメリカのスラング、レストランでよく使われる表現、そして旅行に必要な英語に重点を置いて学習しました。学生たちは、食べ物の注文の仕方やレストランスタッフとのやり取り、交通機関の利用、ホテルでの対応、道の尋ね方など、旅行中によくある場面を想定して練習を行いました。授業では、ロールプレイ、リスニング練習、短いスピーキング課題などを通して、実際の場面で自然な英語を使う自信を身につけることを目指しました。また、ボランティアがディスカッションをサポートし、学生たちは安全に旅行するための方法についても意見を出し合いました。

キャリア探究 (Career Exploration) の授業では、WSPの学生たちがそれぞれ独自のプロダクト提案 (Product Proposals) を完成させ、発表しました。学生たちは、動画広告や詳細なパンフレットを通して、優れた創造性と高い取り組み姿勢を示しました。

このプロジェクトの後、学生たちはスポケーン広域エリアにおけるさまざまなセカンドハンド市場について学び、最終的にワシントン州チェニーにある「Flor Immortal Vintage」を訪問しました。見学では、店舗オーナーに対して、これまでの職歴、お店の理念、商品の仕入れ方法などについてインタビューを行いました。

現在、学生たちはアメリカ式の履歴書の作成に取り組んでおり、職務経験、学歴、専門的なスキルについて整理しています。さらに、プログラム外のEWUスタッフとの最終フォーマル面接に向けた準備も進めています。これらの面接では、自身のバックグラウンドやWSPでの経験、そして身につけてきたスキルが将来のキャリア目標の達成にどのように役立つかについて話す予定です。





先週金曜日、パシフィック・ノースウェスト（Pacific Northwest）の授業の一環として、学生たちは雪嵐の中を移動し、スポケーンのダウンタウンにあるリバーフロント・パークを訪れました。現地では、時計塔を見学し、鉄道の歴史やナタトリウム・パーク、1974年のスポケーン万博（スポケーン・パビリオン）について学び、スポケーンの初期の歴史について理解を深めました。寒さをしのぐために、「Boo Radley Old School Gift Shop」や「Auntie's Bookstore」、「Buffalo Exchange」といった地元のお店にも立ち寄りました。

その後、学生たちはネイティブ・アメリカン・カルチュラルセンターを訪問し、ヤキマ族の講師から部族の工芸や歴史について学びました。いくつかの学生は、小さなバッグを編んだり、人形を作ったりする体験も行いました。授業内では、第二次世界大戦中にスポケーンが日系アメリカ人にとって比較的安全な場所であった歴史について学び、『Baseball Saved Us』を読み、物語の内容をイラスト付きのパネルでまとめました。また、シアトルに拠点を置く企業についてジグソー形式の短い発表を行い、小グループで分かりやすく自信を持って説明する力を養いました。



Activities

この2週間の間、学生たちはキャンパス内で開催されたさまざまな楽しいイベントに参加しました。EWUタレントショーでは、WSPの学生がヒップホップダンスを披露し、見事2位を獲得しました。他のWSPの学生や先生、友人たちも会場で応援し、大いに盛り上がりました。また、IPAの学生が伝統的なメキシコ舞踊を披露し、学生たちは温かい声援を送りました。

さらに、WSPの学生たちはたこ焼きを作り、EWUの学生たちにその作り方を紹介しました。リラックスした雰囲気の中で、双方向的な文化交流が生まれました。

最後に、学生たちはムーンライト・ブレイクファストにも参加し、夜遅くの食事を楽しみながら、ビンゴゲームに参加したり、小さな景品を獲得したりして、キャンパスコミュニティとの交流を深めました。